

World Right to Die Day, 2 November 2021

議員への呼びかけ：市民の終末期の選択を尊重してください！

苦しんでいる個人が自発的な死の援助へのアクセスを禁じられるのは、議員に原因があります。このため、今日、「死の権利協会世界連合」は、固有の死ぬ権利の承認を求めます。スイスでは、自分自身の死の権利が一般的に認められています。6つのスイス自己決定協会は、議員に個々の終末期の決定を尊重するよう要求し、死ぬことへの援助がまだいくつかの国で刑事犯罪であるヨーロッパの状況に言及します。

ギリシャ、ポーランド、またはイギリスでは、死ぬことへの援助は最大14年の懲役で罰せられます。イタリアとフランスでは、深刻な苦しみを抱える人々が長年にわたって人道的な解決策を求めてきました。ドイツとポルトガルでは、自分の人生の終わりの時間と方法を決定する権利を、絶えず阻止しようとする反対者が活動しています。それ以外の点では進歩的なスカンジナビアでも、ほとんど進んでいません。長い苦しみを短くしたいヨーロッパの人々は、しばしば医師の勇気に頼って不法に助けたり、暴力的な自殺に訴えたりしなければなりません。

スイスは、医師が支援する専門家による自殺への寛大で進歩的なアクセスにより、40年間、「最後の人権」に関する選択の自由、自己決定、および自己責任の国際的な役割モデルでした。これに従事している6つのスイス自己決定協会は、スイス連邦政党の規模に近いメンバーを数えています。

国際的なロールモデルとしてのスイス

自分の人生の終わりの時間と方法を決定する自由は人権であり、個人的な決定であり、それは尊重されなければなりません。2011年、欧州人権裁判所はこれを確認しました。それ以来、たとえばドイツやオーストリアでの裁判所の判決により、この自由の権利が確認されました。それには、尊厳のある人生を終わらせるために、他者による自発的かつ専門的な支援を利用することが含まれます。スペイン、ポルトガル、スコットランド、オーストラリアなど、専門家による自殺援助および/または自発的な安楽死に関する法律を制定または少なくとも議論する国が増えています。

自殺援助、事前医療計画、緩和ケア、事前医療計画、高齢者への適切なケアなど、多くの分野で進歩的な法律が制定されているスイスは、世界的に高く評価されている例を示します。スイスの自己決定協会は、この人道的アプローチを保護し、さらに発展させることに取り組んでいます。彼らは、スイスの法律の枠内で医師が支援する自殺を行うだけではありません。さらに、病院、ケア施設、ホスピス、医療専門家などへのインターフェースとネットワークを構築します。ケアの質と選択の自由を向上させるために、情報のギャップを教育して埋めるための包括的なアプローチに取り組んでいます。重病の人と、彼らを治療し世話をする機関や専門家の両方のために。

選択の自由によるエンパワーメント

医学の目覚ましい進歩、終末期の選択肢の改善、患者の権利、緩和的およびホスピスケアなどにもかかわ

らず、誰もが自分が個人的に受け入れられると考える安堵と生活の質を見つけるわけではありません。彼らは、自分の苦しみと家庭での生活を、合法的に、安全な方法で、専門的に支援し、愛する人に囲まれて、自分の選んだ時間に終わらせることを望んでおり、その権利を持っているべきです。

オプションがあるからといって、必ずしもそれを使用する必要はありません。多くの人は、苦しみが耐えられなくなったら、その選択があることを知って力を与えられていると感じます。安全な「非常口」が利用できることを知って彼らは安心します。それは彼らに安心を与え、そして最も重要なことに、生きる勇気を与えます。

選択を拒否し、自殺の可能性とそれに対応する助けを最初から許可しないことは、人が拒絶されて放っておかれていると感じ、危険で孤独な自殺を試みる可能性を高めます。これは多くの場合、死に至るのではなく、さらに多くの苦しみを引き起こす手段によって行われます。死の幫助へのアクセスは、自殺未遂防止の要素です。

議員は市民の終末期の選択を尊重する必要があります

共同の呼びかけで、6つのスイス自己決定協会は議員に、あらゆる場所の市民が苦しみと家庭での生活を終わらせる権利と自由を持つに値することを思い出させます。このために、彼らは安全な方法でそして彼らの愛する人の前でそうするために援助を利用することを許されるべきであり、それにより彼らは苦痛を伴うスイスへの危険な旅をする必要がなくなり、自殺の失敗による苦悩からも解放されるのです。

議員は、自国での終末期の決定において、市民の選択の自由と自己決定を尊重する時が来ました。